

「子育て支援」各地の取り組み 滋賀県東近江市

求めていた親支援に出会って

東近江市子育て支援総合センター 大原 洋子

はじめに

本市は平成17年・18年の2年度にわたり1市7町が合併し東近江市として誕生しました。その結果、合併以前の子育て支援組織をベースとして7か所の子育て支援センターが設置されました。従ってその運営方法や事業は合併前の方法を継承する形で進められ、全体としての統一性に欠け、市全体としてはばらつきが見られました。

次世代育成支援対策地域行動計画で子育て支援総合センター構想が策定され、平成23年度より中核的な機能を有する「子育て支援総合センター」が設置され、4か所の子育て支援センターと1か所のファミリーサポートセンターが統合整理されました。また、事業が総合的に展開できるように子育て支援センターを保健センター内に移し、事業連携の円滑化を進めてきました。さらに支援の在り方については、従来の子育ての交流の場を提供し親を招くというスタイルから、地域のすべての親子を支援対象とし、子育てを通して親自身が育つことに視点を移し事業展開を図ってきました。

子育て支援センターで気づいたこと

平成23年3月、私は、今まで幼稚園、保育園に勤務していましたが早期退職をし、4月から「子育て支援総合センター」で勤務することになりました。長年保育に携わりながら特に0歳、1歳、2歳の育ちについては、親子の関わりが重要だと感じていましたので、今までの経験が生かされるのではないかと快く仕事につきました。

私が知っている5、6年前の子育て支援は、主催者が遊びの準備から全てお膳立てをし、そこに親子を招くといった内容でした。親子で遊ぶ場の提供と「子育てしんどいでしょう」「私たちがお手伝いします」といった、子育ての負担を軽くするためのサービスの提供であったように思います。しかし、そのやり方は本来の親支援につながっていきませんでした。私自身、保育園、幼稚園で見ていた親の姿は、あくまでも子どもを通しての姿であり、子育ての現状や子育てのしんどさについては目が向けられていませんでした。支援の視点がまったく違うことに気づかされました。まず、目の前にいる親の理解から始めようと思いました。

子育て支援センターの事業に参加する親は皆熱心です。「子どもにとって良いことだ」と思ったら積極的に参加する。「早くから色々なことを経験させたい」と子どもに期待を寄せる。子育て支援センターに遊びに来る親も「子どもを安全な所で遊ばせたい」「いろいろな子どもたちと関わらせたい」と足を運ぶ。一見、楽しく子育てをしているように思えますが、会話の中で出てくる内容



は「子どもと一日中一緒にいたら変になりそう」「泣かしたら虐待と思われるから泣かせられない」「友だちがいないし相談する人もいない」「自分の子育てがこれでいいのかわからない」「みんな どうしているのだろう」と子育てに対する負担感と不安な気持ちでいっぱいでした。そんなお母さんたちが居場所を求めて「子育て支援センター」に集い気持ちをリフレッシュする。何回か足を運ぶうちにママ友ができて、子育てに自信をつけてやがて巣立っていく。そうした姿を見るとき、私たちが何をしなくてはならないかのヒントを得たような気がしました。

親に必要なことは日常的な営みの中で出てくる子育ての悩みの回答ではなく、子育てについて相談したり話したりできる仲間です。今までの支援の在り方では、親の自立を促す子育て支援に結びつきません。親として自信をつけて子育てするための親支援が必要なのではないかと思うようになりました。しかし、その具体的な方法を生み出すにはさらなる研修研鑽の必要性を感じ始めました。

B Pとの出会いと取り組み

4か月を過ぎたころ、担当課の職員が、親支援プログラムとして「親子の絆づくりプログラム 赤ちゃんがきた! (以下B P)を取り入れるためにB Pファシリテーター養成講座の受講を進めてきました。当の担当職員は、すでにそのプログラムの先進性に気づき、予算化に向けて動き出していました。将来的には東近江市の子育て支援システム全体で取り組めるように計画を進めていました。私たちは、まさに親支援の在り方を模索していたので、その多くに共感し積極的に受け入れる体制を進めていきました。

平成23年8月、大阪第2期B Pファシリテーター養成講座を3名の職員が受講しました。初めて聞き取る言葉や内容、また参加型の学習形態にも慣れず緊張の2日間でした。特に模擬セッションは、前日は眠れない状態でした。養成講座では、基本的な考え方や、セッションの進め方、実施す

子育ての現状とBPの必要性を伝えていきたい

るための準備や手順など丁寧に指導を受けました。BPでは、「親と子の絆づくり」「基本的信頼感心の安定根」「親同士がピアレビューできる仲間づくり」「少し先を見通した子育ての知識の提供」が大切であることを学びました。まさしく、今求めている親支援の在り方であり、プログラムを実施する使命感と同時にやってみたいと思う気持ちも高まりました。

8月の研修から3か月が過ぎ、平成23年11月に1か所の子育て支援センターで実施することになりました。まず、実施に向けての計画を立て準備を進めました。参加者については、職員が該当する親子家庭へのポスティングをし、保健師には新生児訪問で紹介してもらいました。10組の親子が集まりよいよ実施することになりました。お母さんたちは、最初は緊張気味でしたが、回を増す毎に会話が弾み、次回を楽しみにされるようになってきました。また、赤ちゃんも泣くことが少なくなり、穏やかに過ごすようになってきました。ファシリテーターは毎回緊張しながらの実施でしたが、お母さんたちの表情の変化と振り返りの言葉に励まされ「喜んで参加してもらっている。やって良かった」と達成感を味わうことができました。「BPプログラムはすごい」「みんなに広めたい」と思う瞬間でもありました。

平成24年2月。BPのすばらしさを実感し手応えを感じていたので、2か所目の子育て支援センターで取り組むことにしました。これを機会に、全市4つの保健センターの保健師に、BPプログラムの目的と必要性を伝え協力を要請しました。両者が同施設にいたので連携は取りやすくなっていました。説明だけでなく模擬セッションをして欲しいと言われる熱心な所もあり、保健師の協力なくしては進められない事業なので、協力体制がとれたことは心強かったです。

平成24年度からは東近江市全域で実施することになり、年3回4エリアで実施することになりました。参加募集に関しては個人情報保護の関係もありませんので、対象者全員にBPのチラシが届くように児童手当申請時で担当課に渡してもらいました。更に、保健師の新生児訪問でタイムリーにBPの紹介と案内をしてもらいました。また保健センター事業の「赤ちゃんサロン」や「4か月健診」の機会を利用して子育て支援センター職員も入り、親子の様子を伺いながら関係作りをし、該当する人に勧誘をするなど周知を図りました。

NPファシリテーター養成講座を受けたい

平成23、24年度にBPプログラムのファシリテーターやアシスタントを何度か経験し、ファシリテーターの仕事の難しさと、プログラムにはファシリテーターの力が大きく影響することを感じていました。慣れてくると確かに進行はうまくなり

ますが、セッションをこなすだけで参加者に大事なことが伝わっているのだろうか、と新たな疑問が生まれました。ファシリテーターの力は経験だけでは高まらないのではないかと不安に思うこともありました。また、BPは構造化されたプログラムなのでセッションの本質的な部分について理解できていないような気がしていました。そんな時、以前から関心のあったNPプログラムに気づき、もう一度基本理念から学びたいと思いました。特に「自分の価値観と向き合う」「体験を通して学ぶ」は、興味深い言葉でした。ファシリテーターとしてだけでなく、自分が一人の人間として幅広くなれる様な気がしたのです。そして、平成24年8月のNPファシリテーター養成講座の受講申し込みをしました。実際に受講して4日間の研修は、参加者の志も高く実に充実した日々でした。NPの内容だけでなくそれぞれの生き方として学ぶことも多くあり刺激的でした。

そして平成24年10月。運良くトレーナーさんの声かけでNPファシリテーターをすることになり、実践の一つ一つが、テキストで学んだこととつながり理解が深められました。NPは、参加者のニーズによって毎回のテーマが決められ体験から学んでいきます。参加者はお互いの体験を話し合うことで、他の人の価値観を知り自分の価値観と向き合い、今までの自分の子育てを振り返り考え直すそうとします。今の親に必要なのは、このような体験を通して話し合う場と時間が必要だと思いました。また私自身、今回のNPファシリテーターを経験したことでトレーナーから多くのことを学び、ファシリテーターの役割をより具体的に理解することができたように思います。疑問に思っていたBPの構造化されたプログラムの内容は、すべて参加者のニーズから考えられ、参加者、グループの発達段階が考慮されていることも学習し認識することができました。

BPを広めていくために

BPに参加したお母さんが「いままでしんどかった。友だちもいなくて、どうして良いかわからなかった。でもここに来て、悩んでいるのは自分一人じゃないのだと知って安心した」「こんな場所がほしかった」と涙ながらに話されました。一生懸命子育てをしているお母さんたちにとって、安心して何でも話せる居心地のよい安らぎの時間だったのでしょう。参加した人たちは、その後もサークルやグループとして定期的に集まっています。平成25年度は年4回4エリア全域で実施するようになり、5月実施に向けて準備を進めています。今後は関係機関だけでなく幅広く子育ての現状とBPの必要性を伝えていき、一人でも多くの人がBPに参加し安心して子育てができる環境を整えていきたいです。そのためにも、BPのファシリテーターとしての力量を高めていきたいです。